

地域を流れる飛鳥川の自然を通した地域コミュニティ作り

飛鳥川じゃこ取りネットワーク

代表 ○吉村 元貴（滋賀県立大学 環境生態学科2回生）

1. 活動方針・目的

飛鳥川は多くの生き物が生息し、豊かな自然が残されている河川である。しかし近年、飛鳥川に生息する生き物は数を減らしている。また、川で遊ぶ子どもたちの姿もかつての飛鳥川のように見られなくなった。昔はたくさん生息していたメダカなどの小さな生き物も近年では大きく数を減らしている。このように生き物の減少や子どもの川離れが進むにつれ住民全体の川への意識も薄れ、ゴミが捨てられているような光景も見られるようになってしまった。そこで活動目的・設立の趣意として以下の3点が挙げられる。

- (1) 流域住民に飛鳥川のすばらしさを知ってもらい、流域住民の手で守り、育てること。
- (2) 最近では減ってしまった「川ガキ」(川で遊び、川に親しむ子)を増やすこと。
- (3) 飛鳥川の豊かな自然を維持すること。

2. 活動内容

上記の目的・設立趣意を達成するために、河川清掃活動・水生生物観察会・飛鳥川自然保全活動（魚類相調査・野鳥調査）を中心とし、活動を展開する。まず、魚類相調査・野鳥調査などで川の生態系を把握した上で、飛鳥川の保全活動を進める。その結果をもとに、地域住民や子どもたちに飛鳥川のことをもっと知ってもらい、飛鳥川に愛着をもってもらうために水生生物の観察会を実施する。また、日ごろから飛鳥川への関心を持ってもらうために、定期的な河川清掃活動を実施する。また、来年度から絶滅危惧種のカワバタモロコの保全活動・飛鳥川について学ぶプログラムを流域の子供向けに展開する予定である。

3. 他の活動団体の参考となる事例

当会は2009年3月から設立準備をはじめ、同年4月に設立をした。設立して1年経たない2010年1月で約70名の地域の人々に参加いただいている。

構成メンバーの年代も様々で3歳の子供から大学生、87歳のおじいさんまで世代を超えて様々な方が飛鳥川という一つの事を通して意見を交換し、交流している。

また、地域の自治会の協力で回覧版を回させていただいたり、小学校でも飛鳥川の授業を実施するなど積極的に地域住民と関わり合いを持っている。また、行政とは羽曳野市に河川清掃のゴミの回収をして頂く事や、大阪府アドトリバープログラムに参加している事で大阪府富田林土木事務所に清掃活動の用具の支援、そして看板作製時や勉強会などに必要な備品を貸していただいている。このようにさまざまな主体の協力を得ながら活動を実施している。

4. 今後の課題等

来年度から、小学校と協力して環境学習の一環でカワバタモロコの繁殖授業を実施することになった。カワバタモロコとは体長3~6°のモロコ(魚)で、近年数を減らし大阪府では絶滅危惧II類に指定されている近い将来絶滅の恐れのある生き物に指定されている魚である。それにあたりエゴ的な保全活動ではなく全国的にどこでも実践可能な方法の確立が今後の課題となる。



活動場所・飛鳥川



河川清掃活動



12月河川清掃



清掃の成果

- ・1年に7回清掃活動を実施
- ・毎回25名前後の参加者
- ・3歳～85歳の多くの方に参加いただいている
- ・毎回軽トラック2台分のゴミを回収
- ・大阪府アドプトリバープログラムを活用



初回の清掃活動(4月)

水生生物観察会



魚の赤ちゃん探し(親子観察会)



まえがき作ってじゃこ取りしよう



魚の赤ちゃん探し(親子観察会)
・ナマズの赤ちゃんなど多くの魚を親子で観察。



まえがき作ってじゃこ取りしよう
・地元のお年寄りに「まえがき」(この地域に伝わる網)の作り方を教えていただき、その後、実際にじゃこ取りをする。

流域住民への啓発



啓発掲示板作成



交流会



掲示板作成

飛鳥川の良さを多くの方に知っていただくために看板ではなく掲示板を作成しました。

交流会

バードウォッチングをした後飛鳥川についてのクイズなどをして、川の良さをさせていただきました。飛鳥川を満喫する一日になりました。

会の概要・目的

・2009年4月に発足

・現在約30家庭70名の流域住民が参加

(3歳～85歳まで幅広い年齢の方が川を通して交流)

目的

- ①飛鳥川を流域住民で守り育てる事。
- ②最近では減ってしまった「川ガキ」を増やす事
- ③飛鳥川のすばらしさを流域住民の多くの方に知ってもらうこと

主に生物観察会・河川清掃・生物調査・啓発活動
の4本柱で実施

次年度からの活動予定

今年度の活動を継続しながら

- ・ 小学校と協力して絶滅危惧種カワバタモロコの保全活動を実施
- ・ 飛鳥川を総合的に学ぶプログラムの実施
(予定)
(流域の親子が対象)

カワバタモロコ保全活動



カワバタモロコ繁殖授業



カワバタモロコ

大阪府レッドデータで絶滅危惧Ⅱ類に指定されている淡水魚で、大阪では堺市と今回発見されたため池にしか生息が確認されていません。



生息地

来年度の活動

- ・ 環境教育の一環で小学校でカワバタモロコの繁殖授業を実施
- ・ 生息地のモニタリング
- ・ 分布調査

三重大学大学院、
鈴木 規慈 氏に指導していただく